

令和7年度 第2回秋田県社会教育委員の会議 記録

1 日 時：令和7年9月5日（金） 13時30分から15時30分まで

2 場 所：秋田県生涯学習センター 4階 視聴覚室

3 出席者：社会教育委員10名、事務局9名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育次長挨拶
- (4) 出席者自己紹介
- (5) 議長、副議長選出
- (6) 議事 ①【説明】秋田県社会教育委員の職務内容について
②【説明】令和7年度秋田県教育庁生涯学習課の取組について
③【協議】秋田県の生涯学習・社会教育に期待すること
④その他
- (7) 閉会（生涯学習課長挨拶、事務連絡）

5 配付資料

- (1) 次第、令和7年度・8年度秋田県社会教育委員名簿等
- (2) 令和5年度・6年度秋田県社会教育委員提言書
- (3) 令和7年度秋田県教育庁生涯学習課の取組について
- (4) 第4期あきたの教育振興に関する基本計画（概要版）
- (5) 令和7年度秋田県の生涯学習・文化財保護施策の概要

6 議事録要旨

(1) 【説明】秋田県社会教育委員の職務内容について

秋田県社会教育委員の設置根拠となる法令、職務内容、活動スケジュール等について、配付資料を基に事務局が説明する。

《質疑応答》 特になし

(2) 【説明】令和7年度秋田県教育庁生涯学習課の取組について

令和7年度の当課の重点施策や実施事業等について、配付資料を基に事務局が説明する。

《質疑応答》 委員の質問（○）、委員の意見（⇒）、事務局回答（>）

○実施事業において、令和6年度と変わった部分はどこか。

>「学びを通じた地域づくりプラットフォーム構築事業」である。これは、令和6年度まで実施していた「秋田型教育留学推進事業」と「障害者の生涯学習支援モデル事業」で蓄積したノウハウを、市町村支援として活用すべく新設した事業である。

(3) 【協議】秋田県の生涯学習・社会教育に期待すること

令和7年度、令和8年度の提言書作成するに当たり、今後、秋田県が生涯学習や社会教育において取り組むべき内容等についてグループごとに意見交換を行う。

《Aグループ：5名》 委員の意見（⇒）

⇒eスポーツは異世代交流のきっかけになるとともに、認知症予防になると医学的根拠が出ている。これも生涯学習として大切になっていくのではないかな。

⇒老人福祉施設に入所しているような人にも、地域で学べる機会があるとよいのではないかな。

⇒市町村において、子どもから大人まで健康のためになり、楽しく取り組めるようなイベントの企画・運営ができるような体制があるとよいのではないかな。具体例として「音楽療法」や「防災教育」などが考えられる。

⇒SNSで詐欺被害等に遭う高齢者を守るためにも、高齢者対象のスマホ防犯講座が必要なのではないかな。現在は、メディアリテラシーを若者だけでなく高齢者も身につけていく必要がある。実施に当たっては、オンデマンド教育的な講座をもっと実現して欲しい。

⇒大人も子どもも学ぶべき内容として、「株」や「海外」といったキーワードが考えられるのではないかな。今後は、だれもが知識として身に付けていくことが視野を広げるためにも必要だと思う。

⇒現在メディア等でたびたび話題となる「子どもの貧困」について考えたい。昔はお金や食べ物がないという「あるべきものがない」ことが貧困だった。しかし、現在はそれだけではなく、「体験・経験」ということも含まれていると思う。「持っていない」「したことがない」という体験や経験の不足は、「社会からの疎外感」を生み、それが社会との関わりの希薄化につながっている。これからは、「あってもなくてもよいもの」を大切にしていってほしい。

⇒かつて、人々はみんな地域のつながりの中で生きていた。半径数キロ以内はだいたい顔見知りというのが当たり前だった。現在は、そのようなコミュニティが薄れてきているのを感じる。子ども会やオヤジの会等が主催し、地域ぐるみで参加でき、様々な体験・経験をさせられる。そのような場を整備することが大切だと考える。その点でも、コミュニティ・スクールの設置を全県体制で進めることも必要だと思う。

⇒様々な出来事に触れる意味でも、読書推進についての取組は是非とも重視していただきたい。

《Bグループ：5名》 委員の意見（⇒）

⇒「多様性への対応」というものが、キーワードの一つになってくると思う。

地域の講座にも、外国の方や障害を持った方なども含めて、様々な人が参加でき、認め合えばよいと感じている。

⇒様々な活動をしている団体の特性を認め、それを生かし、その団体同士がつながることが、活動の対象の広がりにもなると思う。そのきっかけをつくる声掛けを今後も行政に担ってほしい。

⇒これまで、地域の伝統文化や芸能の継承に努めてきた。その際、行政の支援は欠かせないものだった。今後もこうした分野への支援の継続をしてほしい。

⇒地域の中で、より強い連携を図っていく必要を感じている。世代間はもちろん、地域でも、縦に横に更なる連携を図っていかなければいけないと思う。

⇒世代間の連携がうまくいっていないので、次のリーダーが育っていないという印象を受ける。世代のつなぎ役を担っていた人たちが、固定化・高齢化してきているということも要因の一つであると思う。

⇒地域のもっている魅力に、そこに住んでいる人たちは意外と気が付かない。自分たちの地域を外から見てくれる視点があれば、改めて地域のもつ魅力を再発見することがたくさんあると考える。

⇒地域住民が感じている魅力はもちろんのこと、外の目で感じた地域の魅力をもっと積極的に発信していく必要があるのではないかと。また、そうした魅力や社会教育で行っている活動等を、より多くの人に知ってもらう取組にも力を入れる必要があると思う。

⇒地域の魅力をSNS等で発信することは、地域の活性化にもつながる。また、地域の人たちががんばっている取組を知らないでいることもあるので、知る機会を増やすことは大切だと思う。

⇒学校と地域の連携も欠かせないものであると感じている。現在ある様々な連携をもっと強くしていく必要があると思う。また、子どもを巻き込む取り組みをもっと増やしていくことで、更なる連携が図れると考える。

⇒子どもに関する活動や取組は、大人の意見を受け入れて立案するだけではなく、子どもたちの意見を尊重して立案できるよう、子どもたちにも自分の意見をしっかり外に出せるようになってほしい。

7 その他

- ・次回、第3回会議は、令和8年1月16日（金）を予定している。
- ・会議終了後、秋田県生涯学習センター見学（任意参加）を実施した。